

平成28年 9月 7日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス  
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢  
(コード2388 東証 J A S D A Q市場)  
問合せ先 開示担当 小竹 康博  
(TEL 03-6225-2207)

## GL ミャンマーでのマイクロファイナンス市場に参入

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、将来収益に大きな影響を与える布石として、巨大かつ大きな収益可能性のあるミャンマー連邦共和国(以下、ミャンマー)のマイクロファイナンス市場への参入を発表いたしました。GL社は本日プレスリリースを公表いたしましたので、その内容を日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

2016年 9月 7日

件名: **GL ミャンマーでのマイクロファイナンス市場に参入**

タイ SET 上場企業でデジタルファイナンス事業を手掛ける Group Lease PCL(以下、GL)は、将来収益に大きな影響を与える布石として、スリランカ民主社会主義共和国(以下、スリランカ)の有力ファイナンスグループ Commercial Credit & Finance Plc (CCF)との提携により、巨大かつ大きな収益可能性のあるミャンマー連邦共和国(以下、ミャンマー)のマイクロファイナンス市場へ参入し事業を拡大する。

GL 会長兼 CEO の此下益司氏は、9月7日にバンコクで行われたプレスコンファレンスでシンガポール共和国にある GL の子会社 GL Holdings PTE. Ltd. (以下、GLH)が、ミャンマーで2年以上に渡って マイクロファイナンス事業を展開しておりスリランカのファイナンスグループの子会社である BG Microfinance Myanmar Co., Ltd. (以下、BGMM)の株式71.9%を取得、買収すると発表した。今回の買収は、BGMM社に対するデューデリジェンスの後に正式に行われるが、順調に進めば今年度の第4四半期からBGMM社の利益がGLの連結として取り込まれる見込みであると発表した。

GLHは、CCF社と繋がりを持つ Roshan S. Egodage氏が所有する持株会社で、スリランカに拠点がある B.G. International Private Limited から BGMM社の大多数の株式

を事実上購入する。残り 28.1%の株式は、Roshan S. Egodage 氏 CEO を務める CCF 社が保持する。

此下益司氏は、Egodage 氏との覚書調印式にて「我々は、スリランカの上場企業で、同国で最も成功しているファイナンス会社である CCF 社との協業を心から歓迎します。」と述べた。CCF 社は、マイクロファイナンス事業で 100 万人以上の顧客を持つマーケットリーダーであり、スリランカで 2015 年のベストマイクロファイナンス企業やベストブランドアワードなどに選出されるなど数多くの賞を授与されている。同社の今期純利益は 22 百万 US ドルを見込んでいる。

GL のこれまでの足跡の中で、ミャンマーは 5 番目の国となる。GL はタイ王国では普通のオートバイリース事業からはじまり、その後、コストパフォーマンスが高い独自の“Digital Finance”事業へと発展し、カンボジア人民共和国、ラオス人民民主共和国、インドネシア共和国の近隣諸国に次々と進出し、事業拡大を成功裏に収めてきた。

先日 GL は、第 2 四半期において過去最高四半期利益である 255.85 百万タイバーツを記録し、上期利益は 478 百万タイバーツに達した。経営陣は、前回発表した今年度利益の見込について、昨年度利益（およそ 5 億タイバーツ）の 2 倍の 10 億タイバーツが益々現実的になってきたと自信見せている。

GL は今回のミャンマーでの買収を中長期未来における利益の源泉と捉えている。現在、BGMM の規模は小さく、“グループローン”（5 人 1 組になり、それぞれが中古のオートバイや他の所持品を購入するために 200US ドルずつを借入れる）のポートフォリオ合計で約 1.5 百万 US ドル、顧客も合計 9,800 人ほどである。しかし小規模でありながら、収益性は非常に高く、月で約 2 万 US ドルの利益を生み出している。

GL が SET（タイ証券取引所）に提出した書類によると、BGMM は各家族のメンバーの中で女性を重要視し、五人一組の女性グループに対して、メンバー全員がその返済責任を負う仕組みでマイクロローンを提供している。ローン満期は 50 週固定で、返済は週ベースとなっている。

此下益司氏は、同社のポートフォリオサイズは容易にそして大幅に拡大する可能性がある。しかし、これまではスリランカ当局による資本流出の厳しい制限によりそれが実現出来なかった。GL の傘下となった今から BGMM は、飛躍的に事業を拡大する。新たな資金として 6.8 百万 US ドルを注入、CCF 社開発の効率的マイクロファイナンスシステムを導入、BGMM は既存の 3 支店（ヤンゴン市内 2 支店、ヤンゴン北西のバゴー市 1 支店）からミャンマー各地 12 以上の様々な地区で新たな支店の拡大を進めていくと言う。

此下益司氏は以下のように考えを述べる。来年、高い実効金利により月々の利益は 10 倍の 20 万 US ドルまで急上昇し、ポートフォリオサイズは来年 30~40 百万 US ドルまで一気に増加するだろう。

全体の動きとしては、GL の成功ビジネスモデル“Digital Finance”は BGMM の急成長に貢献していく。新たなパートナーであるスリランカの CCF 社の効率的な“グループファイナンス”モデルは GL が展開している他の国、とりわけ巨大な成長チャンスがあるインドネシアに紹介、採用していくことになる。

今回の CCF 社との提携は、アセアン域内外での急速なビジネス拡大において最高のシナジーを生むと此下益司氏は述べた。

現地における調印式の模様を写真にてご紹介いたします。



以上